文献検討より導いた チャイルド・ライフ・スペシャリストと ホスピタル・プレイ・スペシャリストの役割

作田和代(CLS)1)、井上絵未(CLS)2)、渡辺悠(CLS)3)、笠井晶菜(CCS)4)、須藤美奈(CCS)5) 、三浦絵莉子(CLS)6) 、深澤一菜子(CLS)1)、天野香菜絵(CLS)7)、上山美津穂(CLS)8)、寺田智子(HPS)1)、早田典子(CLS)9)10)、杉山全美(HPS)1)、伊藤麻衣(CLS)9)、割田陽子(CCS)11)、丸嶋史代(CCS)9)、田中恭子(医師)9)

1)静岡県立こども病院、2)済生会横浜市東部病院、3)東北大学病院、4)元国立がん研究センター中央病院、5)神奈川県立こども医療センター、6)聖路加国際病院、7)埼玉県立小児医療センター、8)京都大学医学部附属病院、9)国立成育医療研究センター、10)順天堂大学医学部附属順天堂医院、11）東京大学医学部附属病院

＜背景・目的＞

小児医療をとりまく環境において、欧米では20世紀半ばから子どもの遊びの意義が注目され、遊びを保障しながら子どもの尊厳を守り、子どもが主体的に医療に取り組むことを専門的に支援するチャイルド・ライフ・スペシャリスト(Child Life Specialist:CLS）やホスピタル・プレイ・スペシャリスト(Hospital Play Specialist:HPS）が医療チームの中で活動している。日本の小児医療現場でも、2000年前後から北米や英国で学んだCLSやHPSが活動を始め、2010年頃からはCLSやHPSの教育をもとにして日本で養成されたHPSや子ども療養支援士(Child Care Staff:CCS)が活動を始めたが、それらの職種の役割や支援は明確に示されていない。そのため、日本の小児医療における、CLS、HPS、CCSの実態を明らかにするための調査項目を導くことを目的に、北米のCLSと英国のHPSが担う役割や支援に関する文献検討を行った。

＜文献検索＞

PubMedを使用

キーワード：“Child Life Specialist”, ”Play Specialist”, “Hospital Play” Full Textに限定して検索（2023年6月）

検索結果：「Child Life Specialist」98件、「Play Specialist」16件、「Hospital play」22件

分析の対象：

CLSやHPSの役割や支援を総合的に示しているものは1件のみと限られていた。そのため、CLSとHPSに対する教育や資格認定などを行う団体が公開している、専門職として必要な能力、業務の基準、活動の目的や方針に関する資料のうち、役割や支援が示されているもの5件も分析の対象とし、計6件を選択した（CLS 3件、HPS 3件）。

＜分析方法＞

選択した文献を研究協力者で翻訳し、 “専門職としての役割”について示された文章を内容の類似性・相違性に基づいて分類した。その分類したものに共通する意味内容を一文で表現してサブカテゴリーとした。さらにサブカテゴリーの抽象度を高めてカテゴリーを作成し、具体的な役割または支援を示す言葉で表現した。この過程は研究協力者の間で議論を重ねながら進めた。

＜結果＞

CLSやHPSの役割や支援は、236の記述から57のサブカテゴリーと15のカテゴリーが抽出された。カテゴリーは9の「直接支援の役割」を示すもの、6の「直接支援以外の役割」を示すものにわけられた（表1）。カテゴリーを構成する記述は、CLSまたはHPSどちらか一方の文献の記述だけで成立するカテゴリーはなく、サブカテゴリーにおいてもCLSとHPSの文献における記述に大きな違いはなかった。記述数が多かった直接支援のカテゴリーは【遊びの支援】【子どもの理解を促す支援】【対処行動・疼痛緩和への支援】【家族・きょうだいへの支援】であった。それらのサブカテゴリーを表2に示す。

表1 文献から抽出されたCLSとHPSの役割と支援 【】内はカテゴリーを示す

直接支援の役割	記述数
【遊びの支援】	53
【子どもの理解を促す支援】	30
【対処行動・疼痛緩和への支援】	21
【家族・きょうだいへの支援】	31
【グリーフに対する支援】	4
【成人移行への支援】	2
【AYA世代のニーズに合わせた支援】	2
【文化や多様性に配慮したコミュニケーションと支援】	5
【施設外（地域）での活動】	8
直接支援以外の役割	
【チーム医療・組織の中での役割】	38
【根拠に基づく支援の探求】	15
【学生・ボランティアへの対応】	12
【専門職としての自己研鑽・業務の質の維持】	11
【専門性の啓発活動】	9
【後進の育成】	4

表2 文献から抽出されたCLSとHPSの役割と支援(サブカテゴリー)
【 】内はカテゴリー、それ以下はサブカテゴリーを示す

【遊びの支援】	記述数
子どものアセスメントを通して、必要な遊びの計画を立てる	11
発達段階に即した遊びの支援により発達を促す	7
遊びを通して日常的な安心できる環境を提供する	6
感情表出や情緒的な回復を促す遊びの支援を行う	12
治療やケア、医療機器に対する親しみを促す遊び（メディカルプレイを含む）を行う	3
子どもとの遊びの様子や記録を通して、他職種のアセスメントに役立つ情報を提供する	1
遊びへの家族の参加を促し家族全体の治癒的効果を促す	5
遊びを通して子どものニーズをアセスメントする	1
医療チーム内で遊びの目的を共有する	4
施設内の遊びの環境を整える	2
施設内の遊びに関する企画をして実施する	1
【子どもの理解を促す支援】	
子どもが検査や処置などの医療体験に向けて心の準備ができるように、アセスメントして 計画を立てる	8
子どもが医療体験に向けて心の準備ができるようにプレパレーションを行う	6
アセスメントに基づいて子どもの状況に合わせた様々なツールを活用する	3
遊びの要素を用いてプレパレーションを行う	3
子どもが自身の身体や状況を理解できるように導く	6
プレパレーションへの家族の参加を促し、患者・家族を中心とした医療につなげる	2
医療チームとプレパレーションの内容を共有して実施する	2
【対処行動・疼痛緩和への支援】	
子どものストレス反応をアセスメントして支援の計画を立てる	3
ストレスが伴う体験をしている子どもに対して治癒的遊びを実践する	4
ストレスのかかる出来事のあとに情緒的な振り返りの支援をする	2
苦痛やストレスへの対処に、発達や状況に合わせた非薬物的な支援を行う	8
処置中の家族の参加と同席を多職種で検討し実践する	1
処置中のコンフォートポジションを多職種で検討し実践する	1
処置中の役割分担を多職種で検討し実践する	2
【家族・きょうだいへの支援】	
家族（きょうだいを含む）の特性、状況をアセスメントして支援の計画を立てる	5
医療や医療経験に対する子どもの反応について、家族の理解を促す	3
家族と医療者のコミュニケーションを促す	3
家族が子どもへの支援に参加できるように促す	8
家族に合う対処方法を実践できるように支援を行う	4
きょうだいに対する心理社会的支援を行う（面会の準備、グリーフケア、遊び、疾患の理解など）	5
患者・家族中心の医療が実践できるように多職種で検討する	3

＜考察＞

1. CLSとHPSの専門性

それぞれのカテゴリーが、CLSまたはHPSの文献の記述に偏りがなく作られていることから、CLSとHPSの役割や支援には大きな違いがないと考えられる。しかし、小児医療体制は国によって異なり、それによって担う役割も影響を受けると考えられるため、日本の小児医療体制での当該職種の役割については実践と共に検討する必要がある。また、カテゴリーに示されている役割や支援は、他の専門職も担っているものである。一方で、今回の結果で示されたサブカテゴリーはCLSやHPSの能力や業務基準等から導いており、当該職種の専門性を表しているとも考えられる。日本の小児医療現場において、CLS、HPS、CCSが医療チームの中でどのようにサブカテゴリーの役割を担っているのか、多職種との連携や協働の実態を基に検証していくことで専門性が明らかになる可能性がある。

2. 遊びの支援

【遊びの支援】は独立したカテゴリーであるが、別のカテゴリーのサブカテゴリーにも“遊び”という表現があり、【遊びの支援】以外でも遊びを用いることが示された。【遊びの支援】は、他の支援と重なりあうもので、CLSやHPSにとって特に意味のある支援と示唆され、実態調査などを通して考察を深めていく必要がある。

3. アセスメント

どのカテゴリーでもアセスメントに基づいた支援を行っていることがサブカテゴリーに記されており、どのようなアセスメントを行っているかが専門性を示す上で重要となる。当該職種のアセスメントは、子どもの精神症状や行動上の問題に焦点をあてたものではなく、現在の子どものストレス状態や子どもの強みに焦点をあて、子ども自身、家族やきょうだいを含めた子どもを取り巻く社会との関係、医療に関する情報、などから幅広く情報を得て行っている。また、サブカテゴリーには、支援を受ける相手が主体的に動くことを支えることを示すものがあり、アセスメントに基づき、相手に合わせた柔軟な支援や関わりが求められていると考えられる。

＜研究の限界と今後の課題＞

今回の結果は文献検討から導き出したものであり、実際の関わりや、専門職として働いている人の声を取り上げていないことに研究結果の限界がある。また、翻訳という過程において、ニュアンスの違う英単語が同じ日本語に訳されてサブカテゴリーの表現に繋がるなど、本来の意味を充分にくみ取った表現となっていない可能性がある。

今後、これらのカテゴリーとサブカテゴリーをもとに、日本の小児医療現場で働く子どもの療養を支援している職種の実態調査を行い、実践や多職種との連携、医療体制などを考慮しながら、CLS、HPS、CCSの専門職としての役割や支援について検討を重ねていく。

厚労研究科研2023年度 がん対策研究事業小児がん領域における療養支援職種の育成と心理社会的支援多職種ガイド開発に向けた研究（EA-14）

全発表者：演題発表に関連し、開示すべきCOI（利益相反）関係にある企業等はありません